

令和6年度(2024年度)

世界中の人が訪れる
京都の世界遺産に
行ってみよう!

京都再発見帖

京都の小学5年生、6年生のための

市内の世界遺産を拝観・見学できます。



京都再発見帖の使い方は
とじ込みページに
のっています。

取付には
学校知し知福地
に貼じお隊のあしきり...



小学校5年生、6年生

世界遺産
「古都京都の文化財」は
2024年12月で
30周年を迎えました!



名前

京都再発見帖で拝観・見学できる期間
令和6年12月20日(金)~令和7年1月8日(水)



京都ファンに、 京都の達人たっじんになろう

京都には世界中からたくさんの観光客が訪れます。
この「京都再発見帖」は、
京都の子どもたちにごそ京都のすばらしさにふれ、
学んでいただきたいと願い、
寺院・神社などのご協力のもと作成したものです。



1 京都観光を考えよう

●京都くに暮らす私たちの役割やくわり

私たちのまち京都には、美しい自然しぜんや、世界遺産いさん とうらくに登録されている寺院や神社、城をはじめ、たくさんの文化財があります。茶道や能などの伝統文化、西陣織や京焼・清水焼などの伝統産業、祭りや四季折々の行事も、1200年を超える長い歴史れきしの中で大切に受け継がれてきました。このように、日本の文化や伝統が今も生き続ける京都は、「日本のふるさと」「日本の宝」ともいわれています。

京都でしか味わえない感動を多くの人に感じてもらうことができれば素敵すてきですね。大切に受け継がれてきた京都の「宝」を次の世代へ、そして日本中、世界中の人に伝えていくことは、京都に暮らす私たちの役割ではないでしょうか。



●私たちの暮らしを支える観光

観光に来る人たちは、ホテルや旅館に泊まって、食事をし、バスや電車で移動し、おみやげを買うなど、いろいろなところでお金を使います。観光客が増えたとお店などの売り上げも増えてまちに活気が出てきます。



それだけではありません。例えば、料理の材料となる野菜をつくる農家、お店の広告をつくる会社、ホテルや旅館の布団やシーツをクリーニングするお店、おみやげや伝統工芸品などをつくる職人さん



というように、さまざまな仕事につながっていきます。

観光は、一部だけでなく、はば広い仕事とかかわりをもつ「総合的な産業」として、京都に暮らす私たちの生活を支えているのです。

●さまざまな人々、文化との出会い、交流

日本全国、そして世界からたくさんの観光客が訪れると、人と人のふれあい、交流が生まれ、ほかの地域や外国の文化を知るきっかけにもなります。

また、日ごろ、ごくあたり前のことと思っていたり、意識していなかった京都や日本の文化に気づくこともあります。交流によって、お互いの地域や国に対する理解が深まるのです。



そして、訪れた人たちに「京都は素晴らしいところだ」と喜んでもらえたら、私たちのまちを誇りに思い、ますます京都が好きになりますか。その気持ちが、京都を大切にしようという一人ひとりの行動につながると、さらに、京都は魅力的なまちになっていきます。

●一方でこんな問題も・・・

観光客が訪れることで起こる問題もあります。

例えば、一部の人気観光地に、同じ時間、時期に観光客が集中することによる混雑の問題や、言葉や文化、生活習慣などの違いにより生じる外国人観光客等のマナーの問題があります。



みんなで知恵をしぼって、こうした問題を解決していきましょう。

2 おもてなしの心って

来てくれた人を大切に思って、心を込めてお迎えすることを「おもてなし」といいます。相手のことを思って気配りをするのです。

お店や友達の家、あるいはどこかよその場所に行ったとき、笑顔で「いらっしゃい」と言ってもらったり、ていねいに話を聞いてもらったり、困っているときに助けてもらったりするとうれしいですね。「来てよかった、また来たい」と思いますよね。

それは、京都を訪れる観光客にとっても同じことです。旅先で受けた温かい「おもてなし」が、その人にとって一番の思い出になることもあるのです。

●わたしたちにもできる「おもてなし」

「おもてなし」は、大人だけがするものではありません。だれでも簡単にできることがたくさんあります。自分ができることから始めてみませんか。

- 笑顔で元気よくあいさつ
- まちを汚さずきれいに
- 道を聞かれたらていねいに



3 京都のことをたくさん知って、京都の暮らしを大切に

私たちが京都を愛し、京都の暮らしや文化を大切にすることも、立派な「おもてなし」です。なぜなら、京都の普通の生活には、私たちが気づいていなくても、長い間受け継がれてきた独自の文化があって、そこに観光客は魅力を感じるからです。そのためには、私たちが京都のことをよく知って、観光客に負けないくらい京都の暮らしや文化を楽しむことが必要です。

みなさんも実際にいろいろなところを訪れ、たくさんの方のことを体験し、一番の京都ファン、そして「おもてなし」の名人になってください。

きんかくじ

金閣寺

ろくおんじ
(鹿苑寺)



むろまちぼくふ あしかがよしみつ
室町幕府 3代将軍・足利義満の別荘を、義満の死後お寺に改めたもので、正しくはろくおんじ鹿苑寺とい
ます。応仁おうにんの乱などで多くの建物が焼失し、現在の建物の多くは江戸時代初期に再建されました。また、衣笠山きぬがさやまを借景に金閣を映す庭園は、池を中心に歩いて楽しむ庭園で、室町時代を代表する名庭です。金閣は昭和25年に焼けてしまいましたが、その5年後に復元されました。



ウェブサイト情報



Check!

おもな見どころ

■金閣(舍利殿)

武家文化と貴族文化が合わさった北山文化を代表する建築物。三層(3階建て)で、屋根の上に鳳凰ほうおうが置いてあります。



鳳凰

■庭園 特別名勝・特別史跡

中心にある鏡湖池には、大小の島がいくつかあり、水面に金閣が映り込む様子が美しさをきわだたせています。

■龍門滝

高さ2メートルほどの滝で、この滝を登り切った鯉は、そのまま竜へと姿を変えて空へ飛び立ったという伝説があります。

データ

- 電話番号: 075-461-0013
- 参拝時間: 9:00~17:00
- 休日: 無休
- アクセス: 市バス「金閣寺道」下車徒歩5分



ぎんかくじ

銀閣寺

じしやうじ
(慈照寺)

むろまちばくふ 室町幕府 8代将軍・あしかがよしまさ 足利義政が、そふ 祖父の義満にならい文明14(1482)年につくった別荘を、後にお寺に改めました。正しくは慈照寺といひます。わびを重んじる東山文化の象徴とされています。東山を借景とした、池のまわりを歩いて楽しむ庭園は、義政の指導により善阿弥一族が西芳寺(苔寺)の庭をモデルに作庭しました。砂盛りは、江戸時代に今のような形になったとされます。



ウェブサイト情報

Check!

おもな見どころ

銀閣(観音殿) 国宝

二層(2階建て)の建物で、上が寺院、下が住宅の建築様式でつくられています。銀ばくははられています。



高台から見た境内の風景

砂盛り

「銀沙灘」と「向月台」と呼ばれる2つの砂盛りが本堂(方丈)前にあります。光を反射させ、明かり取りとしてつくられたといわれています。

東求堂 国宝

銀閣と同じころ建てられ、現存する日本最古の書院造といわれています。また、茶室の始まりともいわれています。内部は、春と秋の特別公開で見ることができます。

データ

- 電話番号: 075-771-5725
- 参拝時間: 8:30~17:00
(12月1日~2月末日は9:00~16:30)
- 休日: 無休
- アクセス: 市バス「銀閣寺道」下車徒歩10分
市バス「銀閣寺前」下車徒歩5分



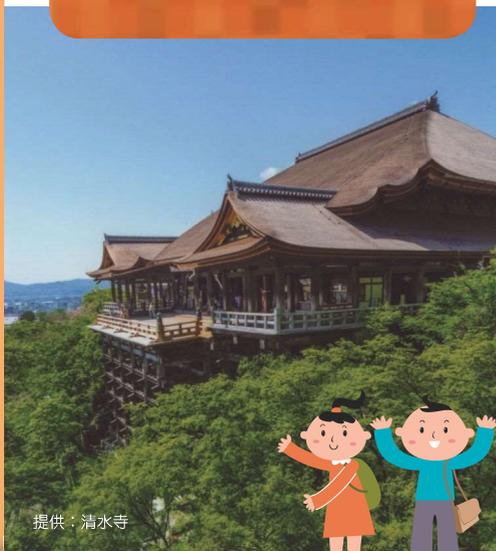
きよみずでら

清水寺

奈良時代の終わり、この地に鹿狩りしかがに来た坂上田村麻呂さかのうえの たむら まろが延鎮上人えんちんしょうにんに生き物を殺すことはよくないことだと教えられ、お堂を建てたのが始まりといわれています。現在の主な建物は、江戸幕府3代将軍・徳川家光とくがわいえみつが再建しました。「清水の舞台」として親しまれる本堂の舞台は、くぎを使わずに組んだ懸造かけづくりの建物で高さは約13m。石段下にある音羽の滝の清水は、古来から、「金色水」こんじき「延命水」と呼ばれ、学問・病氣平癒へいじゆなどのご利益があるといわれています。



ウェブサイト情報



提供：清水寺



Check!

おもな見どころ

■ 本堂と舞台 **国宝**

江戸時代初期の再建で、舞台の広さと美しい屋根が特徴です。思い切って重大なことをすることを、ことわざで「清水の舞台から飛び降りたつもり」と言います。

■ 奥の院 **重要文化財**

本堂と同じく舞台造りの建物で、本尊千手観音や地蔵菩薩、風神・雷神などを祀っています。

■ 音羽の滝

絶え間なく流れる清水が3筋に分かれて流れ落ちており、長寿の「延命水」として信仰されています。



音羽の滝

データ

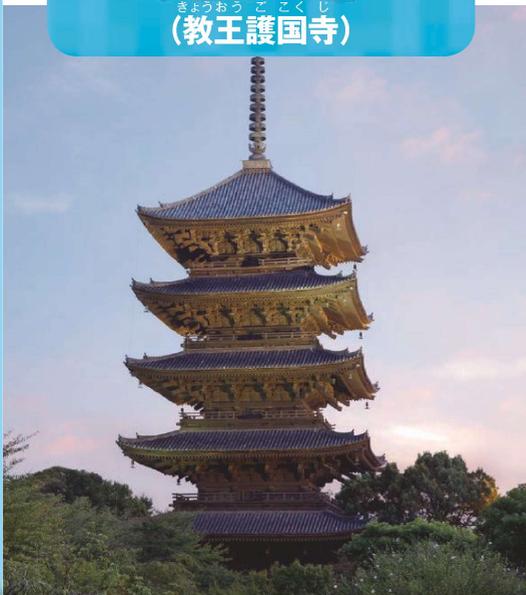
- 電話番号：075-551-1234
- 参拝時間：6:00~18:00(季節により変動あり)
- 休日：無休
- アクセス：市バス「清水道」下車徒歩 10分
市バス「五条坂」下車徒歩 10分
京阪「清水五条駅」下車徒歩 20分



※地主神社は社殿修復工事のため、閉門しています。

とうじ 東寺

きょうおう ごこくじ
(教王護国寺)



都が平安京に移されたころ、都の
玄関口・羅城門の東に、平安京を
守るお寺として建てられました。
西には西寺もありましたが、今は
残っていません。正しくは教王
護国寺といいます。のちに弘法
大師・空海がここを拠点に真言
密教を広めました。五重塔や、
金堂、御影堂などの建物のほか、
数多くの仏像が国宝に指定され、
仏教建築・美術の宝庫です。毎月
21日には、「弘法さん」として親
しまれる市が開かれ、
多くの人でにぎわいま
す。



ウェブサイト情報

Check!

おもな見どころ

■五重塔 国宝

高さは約55mで、木造の塔としては日本一の高さ。
現在の塔は江戸時代はじめにつくられた5代目です。

■金堂 国宝

1603年再建の東寺の本堂。本尊薬師如来、日光菩薩、月光菩薩を安置しています。

■講堂 重要文化財

室町時代に再建された建物。大日如来を中心に国宝の五大明王など21体の仏像が並んでいます。

■御影堂 国宝

かつて空海が住まいとしていた建物で、大師堂とも呼ばれています。国宝の弘法大師坐像を安置しています。



講堂内の立体曼荼羅

データ

■電話番号: 075-691-3325

■参拝時間: 8:00~17:00

■休日: 無休

■アクセス: 市バス「東寺東門前」下車徒歩すぐ
近鉄「東寺駅」下車徒歩5分



て ん り ゅ う じ

天龍寺

むろまち
室町時代のはじめ、室町幕府初代将軍・足利尊氏が後醍醐天皇の供養のために開いたお寺です。名前は尊氏の弟が金龍の夢を見たことにちなむといわれています。寺をつくる費用を得るため、それまで途絶えていた中国(元)との貿易を再開しました。150もの小さな寺が建つ大寺院でしたが、応仁の乱などで焼けてしまいました。嵐山と亀山を借景にした、池を中心に歩いて楽しむ庭園が有名です。



ウェブサイト情報



Check!

おもな見どころ

■ 曹源池庭園 史跡・特別名勝

平安の貴族文化と禅文化が合わさった美しい庭園で、日本最初の史跡・特別名勝に指定されました。

■ 庫裏

お寺の台所兼寺務所の機能を持つ建物で、玄関に入って正面に大きな達磨の絵があります。



庫裏

■ 大方丈

平安時代作の本尊釈迦如来坐像を安置するお堂です。天龍寺最大の建物で、168畳敷きの部屋があります。

■ 法堂

天井いっぱいに、力強く生き生きとした龍の絵がえがかれています。



京都再発見帖特別特典

京都再発見帖を使って天龍寺を参拝した小学5・6年生の皆さんに、学業成就守をプレゼント! 受付で京都再発見帖とチケットを提示してください。*小学5年生または6年生1人につき1つまで



データ

- 電話番号: 075-881-1235
- 参拝時間: 8:30~17:00
- 休日: 無休
- アクセス: 市バス「嵐山天龍寺前」下車徒歩1分
京都バス「京福嵐山駅前」下車徒歩1分
京福電鉄「嵐山駅」下車すぐ
阪急電車「嵐山駅」下車徒歩15分
JR「嵯峨嵐山駅」下車徒歩13分



に じょうじょう

二条城



せきが はら とくがわい え や す
関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が、
京都御所の守護と将軍が京都へやっ
て来たときの宿泊所として、築いた
お城です。かつて本丸には五層の
天守がそびえていましたが、江戸
時代の中ごろ落雷のために焼失し
ました。1867年には、15代将軍
の徳川慶喜がここで大政奉還（政権
を幕府から朝廷に返すこと）の意思
の表明を行い、歴史の舞台となりま
した。昭和14年に京都市が宮内省
から譲り受けて管理しています。

Check!

おもな見どころ

■二の丸御殿 国宝

6つの建物からなる巨大な御殿で、部屋数33、
畳は800畳あまりしかれています。内部には
狩野派がえがいた障壁画がたくさん飾られて
いるほか、欄間彫刻や節金具など、豪華な装飾
がされています。大広間四の間の「松鷹図」が
有名です。

■唐門 重要文化財

鶴と亀と松、牡丹
と蝶、龍と虎、唐
獅子、亀に乗った
仙人など、色とり
どりの豪華な彫刻
がほどこされています。



唐門

■本丸御殿 重要文化財

内堀に囲まれた部分を本丸と呼びま
す。現在の本丸御殿は、京都御所
にあった建物を移したものです。数年
にわたる修理工事が完了し、令和6
年9月から18年ぶりに一般公開さ
れています。



データ

■電話番号：075-841-0096

■見学時間：8:45~16:00

〈閉城17:00〉

■休城日：12月29日~12月31日

※12月26日~12月28日、1月1日~1月3日は、
二の丸御殿、本丸御殿には入れません。なお、
12月24日、1月7日は二の丸御殿のみ入れま
せん。（庭園及び二条城障壁画展示收藏館は公開）

■入城料：市内の小・中学生や70才以上の方
などは無料で入城できます。

★大人2,300円（二の丸御殿・本丸御殿
観覧料含む）

■アクセス：地下鉄「二条城前」駅下車徒歩すぐ
市バス「二条城前」下車徒歩すぐ



ウェブサイト情報



か み が も じ ん じ ゃ

上賀茂神社

か も わけいかづちじんじや
(賀茂別雷神社)



平安時代以前からある京都で最も古い神社です。平安京造営後は、都を守る社となり、伊勢神宮と同様の待遇を受けてきました。本殿・権殿は国宝で、41の社殿が重要文化財です。5月15日に行われる葵祭(賀茂祭)は、上賀茂・下鴨両社のお祭りで、京都三大祭りの一つです。また、5月5日の競馬も平安時代から続く伝統行事で、古式にのっとり行われます。



ウェブサイト情報



Check!

おもな見どころ

■楼門 重要文化財

本殿と権殿の前に立つ門で、鮮やかな朱色に塗られています。江戸時代初期に建て替えられた建築物です。

■本殿・権殿 国宝

平安時代の建築様式を残す江戸時代末期の建築物です。流造の代表的な建造物です。

■細殿と立砂

細殿前にある円錐形の2つの盛砂で、御祭神が降りられた神山をかたどっています。



細殿と立砂

行事・イベント案内

■新春書道奉納

1月3日 午後0時30分

女性書道家の高岡亜衣氏による干支文字他の書道奉納が、境内「御所屋」にて行われます。

■白馬菱覧神事

1月7日 午前10時

神前に七草粥を供え、神馬をひいて大豆をあたえ、一年の無事を祈ります。12時、13時、14時、15時の4回、牽馬の儀が行われ、白馬を見ることで邪気をはらっていただきます。

データ

■電話番号：075-781-0011

■参拝時間：境内自由

■休日：無休

■アクセス：市バス「上賀茂神社前」下車徒歩すぐ



しもがもしんじや

下鴨神社

かもみおやしんじや
(賀茂御祖神社)



かみがもしんじや
上賀茂神社とともに京都で最も古い神社の一つで、本殿を中心に55棟の文化財社殿が並び、平安時代の面影を残しています。葵祭の前の儀式として流鏝馬神事がここで行われます。また、境内に広がる糺の森は、平安京以前の京都の原生林を残す貴重な自然として、社殿とともに世界遺産に指定されています。5000本近い樹木が生い茂っており、野鳥や昆虫類の宝庫です。



ウェブサイト情報

Check!

おもな見どころ

■本殿 (西殿・東殿) **国宝**

ともに流造という建築様式で、典型的な神社本殿の形式をもっています。現在の建物は1863年に建て替えられたものです。

■言社 **重要文化財**

千支の守り神で、7つの小さな社で構成しています。大国主命を祭っています。

■御手洗社

葵祭の斎王代がみそぎの儀式などの神事が行われます。下には、みたらし団子の名の由来となった御手洗池があります。



御手洗社

行事・イベント案内

■蹴鞠はじめ

1月4日午後1時30分

鞠装束に身を包んだ鞠足(鞠を蹴る人)が「アリ」、「ヤア」、「オウ」の掛け声とともに鹿革の鞠を巧みに蹴り上げる様は王朝絵巻さながら。1400年の歴史をつなぐ蹴鞠は、勝敗を競うのではなく、作法に沿った美麗な足技が見物です。

データ

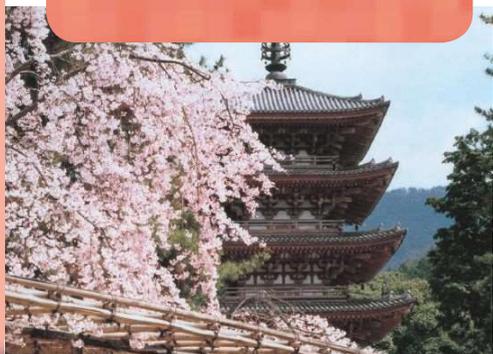
- 電話番号：075-781-0010
- 参拝時間：境内自由
- 休日：無休
- アクセス：市バス「糺ノ森」下車徒歩2分
市バス「下鴨神社前」下車徒歩すぐ



だ い ご し

醍醐寺

しょうぼうりげんだいし かみだいご
聖宝理源大師が874年に上醍醐にお堂を建てたのが始まりで、907年には醍醐天皇によって薬師堂が建てられました。応仁の乱で下醍醐の多くの建物が焼失した中、951年建立の五重塔は、京都市下最古の木造建築として今も残っています。醍醐山一帯と麓の平地におよぶ境内は、それぞれ上醍醐、下醍醐と呼ばれており、多数の文化財があります。



Check!

おもな見どころ



ウェブサイト情報

伽藍

五重塔 **国宝**

高さ約38mで、そのうち約13mを屋根の上にある相輪が占めています。内部には日本密教絵画の源流とされる絵がえがかれています。

金堂 **国宝**

紀州(和歌山)のお寺の本堂を豊臣秀吉の命によって移築したものです。平安時代末期の建築様式をとめています。

三宝院 **特別名勝・特別史跡**

醍醐寺の本坊的な存在で、国宝の表書院と豊臣秀吉が設計したという庭園は、桃山時代の典型的な様式を表しています。



三宝院

霊宝館

醍醐寺所蔵の文化財を保存・展示する宝物館です。

行事・イベント案内

国宝五重大塔御開扉納経法要

12月29日午前10時からと午後1時から写経をして五重塔に奉納します。

初聖宝会(下醍醐・祖師堂)

1月6日午前11時から。

※法要に参座される際は、事前予約が必要です。



京都再発見帖特別写経体験

京都再発見帖を利用できる12月20日~1月8日の期間*1、前日までに醍醐寺にお申し出いただいた方を対象に、写経体験を実施します。友達を誘って、是非おこしください。(保護者の方*2も一緒に来られることをおすすめします)

*1 12月29日は五重大塔法要での写経体験

*2 大人は有料

データ

■電話番号: 075-571-0002 (9:00~17:00)

■参拝時間: 9:00~16:30

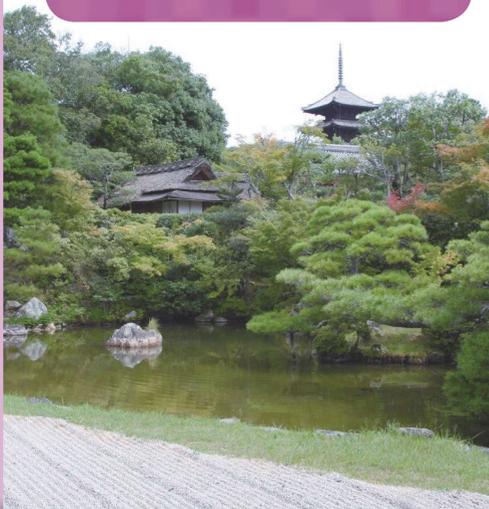
■休日: 無休

※ただし行事等の都合により、一部拝観できない場合があります。

■アクセス: 地下鉄「醍醐駅」下車徒歩10分
 京阪バス「醍醐寺前」下車徒歩すぐ



にん な じ 仁和寺



平安時代に^{うだ}宇多天皇が開創した真^{しん}言宗御室派の総本山です。応仁の乱で焼失後、江戸時代初めに徳川幕府によって再興^{さいこう}されました。正面入口にそびえる二王門をはじめ、広い境内には江戸時代に御所から紫宸殿を移築した^{ごうぼうだいし}金堂や弘法大師をまつる御影堂、江戸時代初期に建てられた五重塔などがあります。春は遅咲きで有名な「御室桜」が人気です。仁和寺御所庭園は、令和3年に国の名勝に指定されました。



ウェブサイト情報



Check!

おもな見どころ

■二王門 重要文化財

高さ18.7mの巨大な門で、正面左右に阿吽の二王像、反対側には唐獅子像が置かれています。平安時代の伝統を引く様式が特徴です。

■金堂 国宝

現存最古の紫宸殿跡で、当時の宮殿建築の特徴が見られます。本尊阿彌陀三尊や四天王像、梵天像等を安置しています。



金堂

■五重塔 重要文化財

高さ36.18mで、塔内部には5体の仏像が安置されているほか、柱や天井には美しく彩色された仏画が描かれています。

データ

- 電話番号：075-461-1155
- 参拝時間：9:00～17:00
(12月～2月は16:30まで)
※最終受付は閉門の30分前
- 休日：無休
- アクセス：市バス「御室仁和寺」下車すぐ
嵐電北野線「御室仁和寺駅」
下車徒歩2分



りょう あん じ

龍安寺

室町時代の1450年に細川勝元が
 妙心寺の僧・義天玄承を招いて開
 いた臨済宗妙心寺派の禅寺です。
 鏡谷池が中央に広がる境内の奥に
 は、枯山水の石庭として知られる
 方丈庭園や庫裡、仏殿、茶室蔵六庵
 などが並んでいます。なかでも方丈
 庭園は世界的にも有名で、三方を
 築地塀で囲まれた幅25m、奥行き
 10mの敷地に白砂と5・2・3・2・
 3と15個の石が配置される様子が、
 禅の美を極めた空間とい
 われます。



ウェブサイト情報



Check!

おもな見どころ

臨済宗妙心寺派

■方丈庭園

特別名勝・史跡

室町時代を代表する枯山水の名庭で、樹木を一切使わず、白砂と石だけを用いてつくられています。作者は不明で、白砂に配置された15個の石の意味にはいろいろな説があります。

■方丈

重要文化財

元の方丈(本堂)が江戸時代後期に火災で焼失したのにもない、塔頭の西源院の方丈を移築したものです。

■知足のつくばい

水戸光圀が寄進したといわれる石造りの手水鉢。中央を「口」の字に見立てて、「吾唯足知(われただたることをする)」という禅の精神を表した言葉が記されています。



つくばい

データ

■電話番号：075-463-2216

■参拝時間：8:30～16:30

(3月1日～11月30日は
8:00～17:00)

■休日：無休

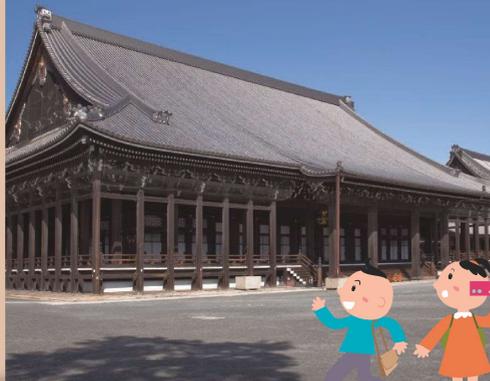
■アクセス：市バス「龍安寺前」下車すぐ
 市バス「立命館大学前」下車徒歩7分
 嵐電「龍安寺」下車徒歩7分



にしほんがんじ

西本願寺

(本願寺)



しんらんしょうにん 親鸞聖人の教えを今に伝える浄土真
 じゅうどしん 宗本願寺派の本山で、「お西さん」と
 しゅうほんがんじは 呼ばれ、人々に親しまれています。も
 とは東山にあったお堂を始まりとして、
 安土桃山時代に豊臣秀吉が土地を寄
 しん 進して現在地に移りました。境内には、
 国宝の書院（白書院・対面所等）や
 からもん ひょうかく きたのう ぶたい 唐門、飛雲閣、北能舞台に加え、平
 成 26 年に新たに阿弥陀堂と御影堂
 あみだどう ごえいどう も国宝に指定されました。また、京都
 市の天然記念物に指定さ
 れている樹齢約 400 年の
 おおいちよう 大銀杏があります。



ウェブサイト情報

Check!

おもな見どころ

■御影堂 国宝

正面の幅 62m、高さ 29m の巨大なお堂に、親鸞聖人の御影像が安置されています。

■阿弥陀堂 国宝

正面の幅 45m、高さ 25m のお堂。

■唐門 国宝

豪華な装飾がみごとに、唐獅子など多くの彫刻が見られます。



大銀杏と御影堂

行事・イベント案内

■除夜会 12月31日 15:30から

■元旦会 1月1日 6:00から

■お西のお坊さんによる境内案内 ※年末年始なし
「お西さんを知ろう！」 (毎日開催)

1日4回実施 (10:00～、11:30～、13:45～、15:30～)
所要時間:約30分 集合場所:お茶所(総合案内所)

■「お西さんの法話」

毎日開催:11:00～(御影堂にて) 20分

■「お西さんの土曜法話」

毎週土曜日:17:00～(閻魔会館1階総会所) 40分

参拝について

- 1月9日以降は法要のため、混雑が予想されます。
- 日程変更の可能性がありますので、詳しくは本願寺参拝教化部へご確認ください。

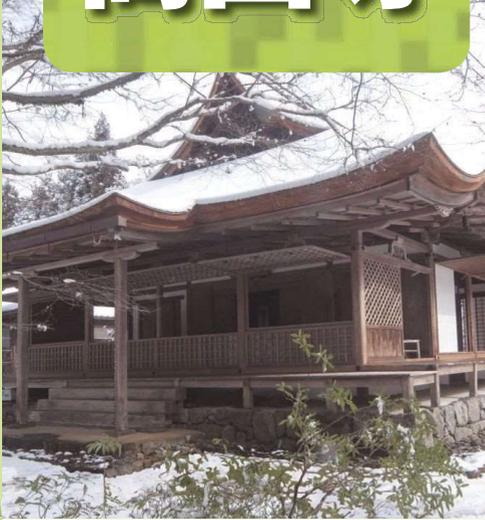
データ

- 電話番号:075-371-5181
- 参拝時間:5:30～17:00
- 休日:無休
- アクセス:市バス「西本願寺前」下車徒歩すぐ
JR「京都駅」下車徒歩15分
京阪バス「西本願寺」下車徒歩すぐ



こうさんじ

高山寺



奈良時代の終わりごろに創建され、その後、鎌倉時代に明恵上人によって、華嚴宗復興の地として再興されました。文化財は、日本最古のマンガといわれる鳥獣人物戯画をはじめ、絵画や書物などの国宝を多く有しています。山中に広がる境内には、鎌倉時代に建てられた石水院や明恵上人坐像を安置する開山堂、江戸時代初期に移築された金堂など、簡素ながらも優美な造りの建物があります。



ウェブサイト情報

Check!

おもな見どころ

■石水院 国宝

もとは経蔵として建てられたものが後に住居様式に改変されました。何度か場所を移された後、明治時代に現在地に移築されました。

■日本最古の茶園

日本茶の発祥とされる茶園で、鎌倉時代、明恵上人が栽培したお茶が宇治へと伝わりました。

■仏足石

お釈迦様の足跡をかたどって礼拝の対象としたもので、仏足石参道にあります。足形にはいくつかの紋様が彫られています。

■鳥獣人物戯画 国宝

動物などの生き物を擬人化した絵で知られる絵巻物です。全4巻で構成されており、普段は複製画が石水院に展示してあります。



鳥獣人物戯画



石水院 冬景

■電話番号：075-861-4204

■参拝時間：8:30～17:00

■休日：無休

■アクセス：市バス・JRバス「梶ノ尾」下車 徒歩5分





おもな文化財の基礎知識

■世界遺産

「古都京都の文化財」

京都再発見帖に載っている寺院・神社・城は、すべて世界遺産です。1994年（平成6年）に、京都市・宇治市・大津市の17の文化財が、ユネスコ（国連教育科学文化機関）によって「古都京都の文化財」として世界遺産に登録され、日本だけでなく世界にとって大切に保護・保存されるべき文化財として認められました。私たちは、世界に対して、京都のすばらしい世界遺産を保護・保存していく責任をもっています。

古都京都の文化財

きんかくじ 金閣寺（京都市北区）	ぎんかくじ 銀閣寺（京都市左京区）
きよみづでら 清水寺（京都市東山区）	とうじ 東寺（京都市南区）
てんりゅうじ 天龍寺（京都市右京区）	にじゅうじょう 二条城（京都市中京区）
かみかもじんじや 上賀茂神社（京都市北区）	しもがもじんじや 下鴨神社（京都市左京区）
だいきじ 醍醐寺（京都市伏見区）	にんわじ 仁和寺（京都市右京区）
りゅうあんじ 龍安寺（京都市右京区）	にしほんがんじ 西本願寺（京都市下京区）
こうさんじ 高山寺（京都市右京区）	さいほうじ 西芳寺（京都市西京区）
ひょうどういん 平等院（宇治市）	うじがみじんじや 宇治上神社（宇治市）
えんりやくじ 延暦寺（大津市）	

■庭園

庭づくりが本格的に様式化されたのは平安時代からで、時代の流れの中で宗教や文化と深くかかわりながら多様化してきました。

池泉回遊式

大きな池を中心にした庭を歩きながら鑑賞する様式で、最も多く見られる形です。池の周りに書院や茶室、川や滝、石畳や飛石が配置されています。



枯山水

室町時代に禅宗の影響を受けてつくられた庭園様式です。水を使わず、白砂の模様（砂紋）や石組みで山や島、川や海を象徴的に表現しています。



浄土式

寝殿造様式を基にしたもので、寺院建築の建物の前に大きい池を配置し、極楽浄土の世界を表しています。

借景

自然の風景を庭の一部として背景に取り込んだ様式です。広い縁側と深い庇をもつ日本独特の建物から見渡すと、額縁に入れた一枚の絵のように見えます。

■仏像

仏像とは、仏教を開いた釈迦（ひつだ）の姿を表したものをはじめとして、次の4種類に大別できます。表情や姿勢、持ち物などに注目して見てみましょう。

如来

如来像は悟りを開いた釈迦をモデルとした最高の仏。全身に一枚の布（納衣）だけをまとっています。「釈迦如来」をはじめ、人々を病苦から救う「薬師如来」、念仏を唱えるものを極楽へ導く「阿彌陀如来」などがあります。



明王

如来の化身ですが、怒りの表情を持つ明王。人々の弱い心を断じ、正しい道へと導く教えを説くとともに悪を払います。例外的に、孔雀明王は優しい顔をしています。



菩薩

悟りを求めて修行中の者を表した菩薩像は、出家前の釈迦をモデルとしており、宝冠などの装身具を付けているのが特徴です。自ら修行するとともに、苦しむ人を救済することから、優しい顔をしています。



天部

仏教成立以前からあった他の宗教の神々を取り入れた守護神を天部と呼びます。仏教に敵対するものから守護し、福をもたらしてくれます。



京都再発見帖で拝観・見学できる世界遺産の場所



交通機関問い合わせ先

●市バス・地下鉄

市バス・地下鉄案内所 (交通局) TEL.075-863-5200

【忘れ物の問い合わせ】

(地下鉄) 烏丸御池駅案内所 TEL.075-213-1650

(市バス) 北大路案内所 TEL.075-493-0410

お得なきっぷ

●地下鉄・バス一日券 (小学生 550 円)

市営地下鉄全線と市バス全線が1日乗り放題です。

地下鉄とバスを組み合わせることで、移動時間が短縮され、京都市内を効率よく移動できるのでお得で便利です。

●地下鉄一日券 (小学生 400 円)

市営地下鉄全線が1日乗り放題です。

京都についてもっと知りたい人は、ウェブサイトで調べてみましょう



京都への修学旅行をサポートするサイト

きょうと修学旅行ナビ <https://shugakuryoko.kyoto.travel/>



京都観光オフィシャルサイト

京都観光Navi <https://ja.kyoto.travel/>



「スカイホップバス」を使って 京都の世界遺産を巡ろう!!



京都市中心部の世界遺産をはじめとした主要観光地を巡る2階建てバス(ダブルデッカーバス)でおなじみの「スカイホップバス」。その開放感あふれるオープントップからは、普段見られない高さからの景色が楽しめます。この「京都再発見帖」を持っている**本人(小学5年生または6年生)1名+2名(大人2名または大人1名+子ども1名)の最大3名まで半額**で利用いただけます。

お得に乗れます



スカイホップバスは、
屋根のない2階席の乗車となります
(一部車両を除く)。

京都のまちを
見渡せる!



利用方法等詳しくは右の二次元コード(またはURL)から
ご確認ください。

<https://skyhopbus.com/kyoto/ja/news/215>

※利用の際には、本冊子に付属のチケットが必要です。
チケットを切り取って、各停留所での乗車時に提示のうえ
係員より乗車券を購入ください。



あなたの感想を聞かせてください!

抽選で「キクタン英会話【京都編】」または
世界遺産「古都京都の文化財」30周年記念
グッズをプレゼントします。

アンケートは右記の二次元コード
(またはURL)から回答いただけます。

https://city.kyoto.lg.jp/multiformmultiform.phpform_id=9110

応募締切: 令和7年1月31日(金)

教えて頂きました住所・氏名等については、プレゼント発送のため
のみに利用させていただきます。その他の情報につきましては、
集計、分析を行い、よりよい事業につなげていきます。



外国人観光客と
楽しく交流
できるよ!

ロゴ入り!



環境に配慮した
紙と木が主素材の
ステーションナリーセット!

京都が京都であり続けるために 皆様と大切にしていきたいこと

京都観光行動基準 (京都観光モラル)

京都市では、観光客に京都を楽しんでいただくこと、京都が魅力的なまちであり続けることを両立していくために、私たち「市民」、ホテルやみやげ物の店などで「働くみなさん」や「観光客」など、京都観光に関わる全ての方と一緒に大切にしていきたいことをまとめ

た「京都観光モラル」を広める取組をしています。

みなさんが京都再発見帖を使って、寺院・神社を訪れるときもこの「京都観光モラル」を守った行動を心がけましょう。



働くみなさん

観光客

市民

京都観光モラルで大切にしていきたいこと〈例〉

地域の暮らし、景観や環境を大切に 観光客にもあたたかく

町内会や地蔵盆などへの参加や、門掃き・打ち水をするなど、地域の暮らし、環境や景観を大切にす。道に迷っている人に親切に対応するなど、観光客をあたたかくお迎えする。



京都の歴史や文化を好きになる

寺院・神社や美術館・博物館などを巡って、京都の歴史や文化を再発見。京都の魅力を楽しみ、京都をもっと好きになる。



京都観光モラル

京都が京都であり続けるために
皆様と大切にしていきたいこと

こちらのウェブサイトで
詳しく紹介しています。

